

サステナブル環境学国際コース

International Program for Environmental Sustainability Science (IPESS)

1. コース開設の経緯

平成21年度に本学のグローバル30プログラムが採択されたのに伴い、本研究科はサステナブル環境学国際コースを平成21年10月に新設し、本学のグローバル30プログラムに参加することになった。本コースはこれまでの基本教育コースである1～4コースに続く第5のコースであり、本コースの人材養成目的は、地域諸社会の発展と環境に関する諸問題の複合的な構造を理解し、その解決に向けて、技術理解力、技術デザイン力、社会構築力および国際性を備え、企画・政策立案で地域の自然資源、生態系の利用者集団、全国的・国際的NGO/NPOの間の協同管理や調整を担える環境サステナブルディレクターを養成することである。

2. カリキュラム

本コースの特徴は、講義は全て英語で開講され、かつ環境に関する自然科学・人文社会学に関する幅広いカリキュラムとなっていることである。そのため、自然科学のみならず人文社会学を専攻した学生でも柔軟に単位を履修することができるようになっている。本コースは、1～4コースの前期2年の課程と後期3年の課程の教育課程と基本的に同様であるが、英語講義ゆえ多少の相違点がある。まず、前期2年の課程では、共通科目Aとして英語版の環境科学概論を履修し、文系から理系にわたる環境科学の学際的な幅広い基礎を学習する。次に共通科目Bであるが、1～4コースの各コース概論の英語版を用意するのは負担が大きいため、環境科学の学際的知識をより深められる講義を各コースから3ないし4つ提供して頂き、応用環境科学概論を新設した。さらに留学生を対象にした環境科学演習を用意した。つまり、本コースに所属する学生は、この応用環境科学概論と環境科学演習を履修し、共通科目Bとして必要な4単位を取得するようになっている。専門教育では、6科目用意されている専門基盤科目から2科目4単位以上を、また20科目用意されている専門科目から5科目10単位以上を履修する。なお、専門科目では、ヒューマン・セキュリティ連携国際教育プログラムの講義科目も共用させて頂いている。後期3年の課程では、特にサステナブル環境学国際コースのために新設した科目は無く、工学研究科が既に実施している留学生特別コースの講義を利用している。

1～4コースでは、前期課程および後期課程ともそれぞれのコースでセミナーおよび研修を実施している。しかし、本コースには専任の教員はおらず、1～4コースの教員が兼担しているため、本コース独自でセミナーおよび研修を実施するのは困難である。そこで、本コースの学生は、所属する研究室の指導教員が属しているコースでセミナーおよび研修を実施し、本コースのセミナーおよび研修としている。

3. 入試方法

入試は本研究科が実施している推薦入試の日に合わせて実施している。入試は以下のような行程で実施している。

- 1) 4月に、本研究科のHPに本コースの募集要項を掲示し、受験生に周知する。その際、本コースの受験を希望するものは、希望する研究室の指導教員に事前にコンタクトすることを義務付けている。
- 2) 受験を希望する学生からコンタクトがあった場合、指導教員は受験の可否を判断し、可と判断した場合は、その結果を本研究科教務係に連絡する。
- 3) 教務係は、その受験生に、下記の書類を準備し、本研究科教務係まで送付するようにメール等で指示する。その際に小論文の課題も一緒に伝える。
 - ・卒業(修了)証明書(見込みも含む)
 - ・成績証明書
 - ・TOEIC/TOFEL当の公式認定書(公式認定書がない場合は、英語能力を証明できる書類(例えば英語論文など))
 - ・小論文
 - ・推薦書
 - ・卒業論文あるいは修士論文のコピー(論文が英語ではなく、受験生の母国語で書かれている場合は、論文の内容を4ページ程度にまとめたアブストラクトも添付)
- 4) 書類選考により、学生を数名に選抜し、その結果を受験生に連絡する。選抜された学生は、入試日に実施される面接試験に臨むため、検定料・願書などを本研究科教務係に提出する。
- 5) 7月上旬に行われる本研究科の推薦入試に合わせて、本コースの試験(面接試験)を実施する。面接では、受験生が実施した卒業研究あるいは修士研究を英語で発表させ、その内容に対して質疑応答を行う。前期課程の受験生に対しては、質疑応答を通して、受験生の基礎学力を判断する。受験生が既に来日している、あるいは来日できる場合は、本研究科本館で面接試験を実施するが、受験生が来日できない場合は、複数の教員が現地に向向いて面接試験を実施するか、インターネットWebカメラを用いた面接試験を実施する。
- 6) 書類審査と面接試験の結果を総合的に判断し、可否を決定する。

上述した入試方法により、平成21年10月には前期課程2名、後期課程1名の学生が入学した。さらに、平成22年10月には、前期課程3名、後期課程2名の学生が入学している。